

法華堂

法華堂は、東アジア全域で広く崇拝されている大乘仏教の中心的教科書である法華經にちなんで名付けられた。堂の御本尊は、金色に輝く正しい行いの菩薩である普賢菩薩（サンスクリット語：サマタプハドラ）である。普賢菩薩は典型的な瞑想姿で蓮の花の上にお座りになって表現され、手に蓮の花を持ち、精巧な青銅の冠をおかぶりになっている。基台の内部には狭い小部屋があり、その中には象の彫刻が置かれている。一般的に白象を伴う普賢菩薩の典型的な表現からの脱却をねらったのか、この彫刻は黒である。普賢菩薩の背後には光り輝く光背があり、光輪のように神聖な力の発散を象徴している。

お堂の格間格子天井は、普賢菩薩の御像の真上の空間が高くなっており、菩薩の重要性を表す象徴的な区分をなしている。天井から吊り下げられた金色の装飾は、インドのサンスクリット語のシッダム文字で書かれ、無限の光を表す阿弥陀如来の真言が刻まれている。現在の建物とそのご本尊は、江戸時代（1603～1867 年）のものである。